

- 1 女のえう魔じかりけるおん名かな
- 2 今人(いまひと)のいまは名のみのおたのこゑ
- 3 落ちながら椿は吾(われ)や名を忘れ
- 4 小波(さざなみ)の椿の波をくりかへす
- 5 輩(ともがら)の木は忌(き)の椿なりとこそ
- 6 吹きちぎる風こそ光れ風にこゑ
- 7 春浅く生(あ)らすなりける雨障(あまつつみ)
- 8 男猫(をねこ)虎(とら)ほめきに小櫓(こなら)這ひのぼる
- 9 日月(じつげつ)に菜の花があり揺れて濃し
- 10 ふはと昔蓆(クローバー)がくれの粘土鳩(クレイピジョン)
- 11 捨売の独活を山路の頭陀袋(づだぶくろ)
- 12 放駒(はなれごま)日永ひととき忘れられ
- 13 足引きの山辺を泳ぐ花の機微
- 14 まどろみにこんなにさくらかと睡る
- 15 大鳥(おほとり)が花のはらから眩(くら)まうず
- 16 今しある人をば花のあへしらふ
- 17 花とのみ夢のはたての磧(いしがはら)
- 18 三月もをはりの雲のまはり晴れ
- 19 間食(かんしょく)や何度も燕来て去つて
- 20 はねマリオとぶ春愁の三次元
- 21 花は春の夜マリカしよ暴れないで
- 22 服を脱ぐとき真つ暗に紫木蓮
- 23 美ぞ巨木さながらあたたかくてある
- 24 まなかひに靡(なび)かふ水も夏霞
- 25 石の上(へ)の蛇そこばくの水を被(き)ぬ

- 26 清和(せいわ)わが頭(あたま)貫くえくすれい
27 吹きぬしが緑なりける夜風かな
28 なきがらに蟻の禿(かぶろ)や交(かは)しあふ
29 宵宮(よひみや)のみならんだるに訃音(ふいん)飛ぶ
30 日向はも夏百日(げひやくにち)なるこれからに
31 麦秋の窓の外れてゐて景色
32 遊びつつ吾ら貧しく花は葉に
33 素潜りの泡(あぶく)の上がる山女魚(やまめ)かな
34 右岸わが生れの町の梅雨の木木
35 新しき名を薔薇白く幾重にも
36 搭乗涼しきその旅客機の姿見ず
37 避暑吾ら坐るからだを凭せかけ
38 ゐもせぬに何(なん)など汝(なれ)を百日紅
39 たれを曳く小蟻を夢や釣忍(つりしのぶ)
40 立てかけて木刀の弧よ南風
41 犀(さい)の死を知らず夏雨それも止み
42 ひるがへる鮎か紙片か雨さなか
43 蟬は愛いまひと度の洗濯機
44 香水と床に寝てゐるあなたたち
45 大プール弾力のある樹脂の岩
46 来(こ)ぬ雨の空が真夏の鳥居の朱(しゆ)
47 藻まみれに大岩います早かな
48 若人(わかうど)の弩(ど)なるこゑ飛ぶ水喧嘩
49 目に触れぬ水の覚えも子子に
50 あるなれば朝涼の火を見んとみつ

- 51 かなしむに打てば鳴神夜も打てば
- 52 鰻(かじか) みる山椒魚の向うがは
- 53 魚(さかな) がる山椒魚とひととこね
- 54 しろたへのふたつ枕に秋立つぞ
- 55 法師蟬童子が首を掴まへし
- 56 尋常(じんじやう) に硯洗ふををんなのこ
- 57 七夕や手をつなぎ手の糾(あざな) へる
- 58 新盆の火に色のぼる咄嗟(とつき) かな
- 59 秋風に鉛筆の木の植ゑてある
- 60 文塚(ふみづか) や秋も蛇とは疲るるが
- 61 唧筒(そくとう) に湯屋の湯走る蕎麦の花
- 62 しののめの野を離(か) るる日ぞ垣衣(かきごろも)
- 63 腕づくに鰻突きにき息とめて
- 64 寸前の今の鰻ぞ消(け) たりける
- 65 落鮎のあぎとふ泡と川の波
- 66 いなびかり松の昔の林あり
- 67 われ月と煤けてしがな匣(はこ) の屈輪(ぐり)
- 68 私(わたくし) すなつかし草(ぐさ) の撫でしづく
- 69 滑らするかな毗(まなじり) を坂鳥(さかどり) を
- 70 水ふたつ水の高みに渡り鳥
- 71 渡り鳥手漉(てす) きの天のすれすれに
- 72 鳥立てばとんと小さき紅葉山
- 73 こなごなの落葉吹(ふき) こむ捨籠(すてかまど)
- 74 靴下の糸の冬めき抜き取られ
- 75 刺し描かれし乳房に花と寒さの朱

- 76 侘助の一穢(いちゑ)の昼は広ごりぬ
- 77 小六月風となり吹ゆけりけり
- 78 疎水(そすい)とて鮪(はえ)泳がする散紅葉
- 79 手に流れ冷たく花の如くなる
- 80 をりすゑの鳥ならで飛ぶ初雪に
- 81 庭枯れぬ掛けしままなる簾(すだれ)ごと
- 82 との曇(ぐもり)とは息深く氷(こほ)るかな
- 83 天蓋(てんがい)より氷り初(そ)むらんおこじよ立ち
- 84 大雪(たいせつ)や現るるとき人は顔
- 85 いちどきに降る雪となり降る速さ
- 86 鎌鼬(かまいたち)木霊(こだま)のなかを動きづめ
- 87 寒雲より鳶(たぐひ)の小(ち)さきが出
- 88 青鷹(もろがへり)何んの頭か振り零し
- 89 はづむ日輪水鳥が横切れば
- 90 折柄(をりから)の冬めくるめくえんりゑど
- 91 凍死体さはに小波をどりみつ
- 92 歳末れ・みぜらぶるみる一つ部屋
- 93 歳旦や木杭(ぼつくひ)は著(き)る火の衣
- 94 一山(いつさん)はうひの明りを積みつべし
- 95 初昔(はつむかし)楽(がく)として浴びひのひかり
- 96 繯枕(ばくまくら)うたた暗中剝(は)ぐなづき
- 97 みたりよたりと寄り蓬萊をろがみぬ
- 98 これやこのはなある春となるのなり
- 99 快晴の寒の入こそかなしけれ
- 100 蠟梅や雨は予報のそのやうに